

ほーほーどり

我孫子野鳥を守る会

No. 219

2011年

3～4月号

行 事 案 内

3月手賀沼探鳥会とカウント

期 日 3月13日(日) 雨天中止
集 合 我孫子市役所 午前9時
案 内 冬鳥が北へ渡り始めます。彼等を
観察するラストチャンスを楽しみま
しょう。カンムリカイツブリや猛禽
類も期待できそうです。沼周辺の小
鳥も注意深く観察しましょう
解 散 正午
担 当 佐々木

交 通 た) 自家用車分乗です。便乗者は一人
1,500円を運転手にお渡し下さい。
申込の際、自家用車を提供可能な方
はその旨をご連絡下さい。
持 物 観察用具、雨具、防寒具、昼食(途
中のコンビニで購入可)
申 込 野口隆也まで
Tel: 04-7163-7898
担 当 野口(隆)、松田

4月手賀沼探鳥会とカウント

期 日 4月10日(日) 雨天中止
集 合 我孫子市役所 午前9時
案 内 春の渡りの季節です。シギやチド
リは来ているのでしょうか?
居残っている冬鳥達と名残を惜し
む一方、気の早い夏鳥との再会に
も期待しましょう。
解 散 正午
担 当 小林(寿)、野口(紀)

葛西臨海公園探鳥会

期 日 4月16日(土) 雨天中止
集 合 我孫子駅改札口 午前8時
案 内 水辺の鳥(シギ・チドリ等)、野山
の鳥の両方が期待できます(前回は
ムシクイやミヤコドリも観察でき
ました)
交 通 我孫子駅午前8:07 発千代田線
(代々木上原行)で新松戸乗換え、
武蔵野線(東京行)で葛西臨海公園
駅へ。
持 物 観察用具、雨具、昼食(途中購入可)
申 込 松田幸保まで
Tel: 04-7182-8307
担 当 松田、野口(隆)

北本自然観察公園探鳥会

期 日 3月20日(日) 雨天中止
集 合 我孫子駅北口 午前7時30分
案 内 数多くの冬鳥や水鳥が期待できま
す。(昨年のこの時期はベニマシコ
やミヤマホオジロが観察されまし

平成 23 年度定期総会

日 時 4月 10日(日) 13:30~
 場 所 水の館 3F 研修室
 議 題 平成 22 年度活動報告、
 同決算報告
 平成 23 年度事業計画案、
 同予算案
 役員改選
 その他

22 年度の成果と反省を総括し、23 年度の活動方針等を決める総会です。出来るだけ多数の会員の出席をお願いし、活発な総会になるよう期待いたします。

3 月幹事会案内

日 時 3月 13日(日) 13:30~ 16:30
 場 所 アビスタ 工芸工作室
 議 題 総会提出資料の検討
 22 年度活動報告、決算案
 および 23 年度事業計画、
 予算案
 会報 220 号掲載記事について
 その他(議題を提出する場合は事務局へ連絡ください。)

<平成 23 年度上期行事予定(4月~9月)>

4月	10日(日) 16日(土)	午前 手賀沼定例探鳥会 午後 定期総会 葛西臨海公園探鳥会	小林(寿)、野口(紀) 事務局 松田、野口(隆)
5月	8日(日) 15日(日) 21日(土)~22日(日)	午前 Enjoy 手賀沼探鳥会 午後 幹事会 筑波山探鳥会 軽井沢・菅平探鳥会	全幹事と会員 事務局 染谷、鈴木 桑森、松本
6月	12日(日) 18日(土)、19日(日) 26日(日)	手賀沼定例探鳥会 市民活動フェア in あびこ 2011 笹川・印旛沼探鳥会	北原 浅井、佐々木 北原、小玉
7月	2日(土) 10日(日) 23日(土) 31日(日)	手賀沼学会 午前 手賀沼定例探鳥会 午後 幹事会 映写会 納涼会 ホタルの夕べ	間野、宮下、野口(隆) 浅井 事務局 吉田、野口(隆) 北原、染谷 木村、染谷
8月	14日(日) 21日(日)	手賀沼定例探鳥会 シギチ探鳥会	桑森 松本、松田
9月	11日(日)	午前 手賀沼定例探鳥会 午後 幹事会	松田 事務局

我孫子野鳥を守る会 40周年記念行事

我孫子野鳥を守る会は 2012 年 3 月で 40 周年を迎えます。会としては多くの会員の皆様に参加した 40 周年に向けた事業を計画しました。今年はその準備の年とし推進してまいりますので振るってご参加下さい。

40 周年記念事業として計画しているものは次の通りです。

記念誌：「手賀沼の鳥」(仮称)の制作、
記念誌：「野鳥と草木に親しむ手賀沼散歩」(仮称)の制作、
記念パーティ、
記念講演会、
記念探鳥会(一般市民も対象)、
会員による記念発表会。

特に記念誌作りは、多くの皆様の協力

が不可欠です。

何気なく散歩している場所も意識しないと見過ごしてしまいます。野鳥や草木を少しでも知っていれば散歩も楽しくなります。そこで私たちはそのような人が、手賀沼散歩を楽しむ手助けをしたいということで、野鳥と草木に親しむ本(携行版)を作ることになりました。多くの人の視点が必要です。全員参加で 40 周年記念誌を作成しましょう。

「手賀沼散歩」は三グループが毎月決められた場所を調査します。日頃気が付かない野鳥や草木に会える絶好のチャンスです。皆様の参加をお待ちしております。
(間野吉幸)

40 周年記念誌(一般向)散歩コース観察会のご案内

各散歩コースと観察予定日時・集合場所等は次の通りです。

お近くにお住まいの方、鳥の好む「草木」に興味ある方、大歓迎です。

尚、観察予定日は天候等の事情で変更の場合がありますので、参加ご希望の方は下記世話役までご連絡ください。

	散歩観察コース	散歩観察日	時 間	集合場所
G1	手賀沼公園～手賀大橋	3月5日(土)	14:00～	アビスタ正面玄関前
	手賀大橋～滝前広場	4月2日(土)		
	あけぼの山周辺	3月12日(土) 4月9日(土)	14:00～	柏市農業公園の駐車場
G2	北柏ふるさと公園～ヒドリ橋	3月7日(月) 4月4日(月)	9:00～	手賀丘公園どんぐりの家
	手賀の丘公園・染井入落			北柏ふるさと公園駐車場
G3	谷津田～五本松公園	4月21日(木)	9:00～	成田線東我孫子駅前広場
	千間橋周辺	3月17日(木)	9:00～	千間橋

4月の全体メンバー会議は4月10日(日)定期総会終了後、水の館にて開催する予定です。

<世話役>

G1 グループ 佐々木隆 電話 080-5507-5343

G2 グループ 野口隆也 電話 04-7163-7898 : 松下勝子 電話 04-7191-4438

G3 グループ 鈴木静治 電話 04-7169-4191

(野口隆也)

40周年記念事業での写真募集

会員の写真で綴る「守る会の活動展」という発表会を来年開く予定です。

会員の保有している写真を展示して会の40年の歩みをたどりたいと考えておりますので、皆さんのアルバムやパソコンの中などを探して是非写真を提供下さい。

- * 写真の内容 会の行事・活動等のスナップ写真、記念写真など
- * 写真添付記載事項 所有者氏名、行事名、行事の年月日、特記事項(有れば)、
撮影者氏名(分かれば)
- * 提出期限 平成23年3月31日
- * 提出先 郵送 〒277-0005 柏市柏1327-6 吉田隆行宛
E-mail: abikoyacho@yahoo.co.jp
定例探鳥会等での手渡し(大久保陸夫、谷山晴男、類地佑子、
古出洋子へ)でも結構です。
- * 返却 発表会終了後返却いたします。
- * 問合せ先 “提出先”記載のメンバーへ

(吉田隆行)

行 事 報 告

12月手賀沼探鳥会とカウント

調査日時 2010.12.12 9:00~12:00

晴 北風微弱 気温12

前日のような強い風もなく、天候に恵まれましたが、昨年(45種)より認めた鳥が少ないためか、最後の鳥合わせの時に上空からオオタカが「オーイ!ワシ(タカだけど)も数えてくれよ~!」と現れてくれました。

<認めた鳥> カイツブリ、ハジロカイツブリ、カンムリカイツブリ、カワウ、ゴイサギ、ダイサギ、コサギ、アオサギ、コブハクチョウ、マガモ、カルガモ、コガモ、ヒドリガモ、オナガガモ、ミコアイサ、ミサゴ、オオタカ、チョウゲンボウ、キジ、バン、オオバン、ユリカモメ、セグロカモメ、キジバト、カワセミ、ハクセキレイ、タヒバリ、ヒヨドリ、モズ、ツグミ、メジロ、ホオジロ、アオジ、オオジュリン、カワラヒワ、スズメ、ムクドリ、ハシボソガラス、

ハシブトガラス 計 39 種

<探鳥班> 栗田励、大久保陸夫、松田幸保、村瀬和則、肥後邦彦、吉田知之、染谷良子、川越久枝、金子幸子、桑森亮、秋田桂子、佐藤忠雄、厨川一夫、猪爪敏夫、田丸喜昭、武藤康之、田中悟、北原建郎、佐々木隆、野口隆也、松本勝英、松本葉子、小玉文夫、小川廣子、小林寿美子、宮下三禮、山中浩一、小坂忠久、榎本右、中野久夫、間野吉幸、岡野隼文、小林博之、小林美智子、柴本三弘、柴本法子、小林孝夫、類地佑子、六角昭男、天野睦子 (担当)浅井久 参加者 41 名

<カウント班> 木村稔、田中功、染谷迪夫
調査日時：2010.12.12 9:00~13:00

晴 気温 14

調査種	上沼	下沼	合計
カイツブリ	1	6	7
ハシロカイツブリ	12	4	16
カンムリカイツブリ	52	15	67
カワウ	40	55	95
コイサギ	70	0	70
ダイサギ	7	7	14
コサギ	6	9	15
アオサギ	13	2	15
コブハクチョウ	22	17	39
マガモ	1	0	1
カルガモ	80	0	80
コガモ	232	29	261
オカヨシガモ	13	0	13
ヒトリガモ	0	55	55
オナガガモ	7	0	7
スズカモ	0	1	1
ミコアイサ	4	8	12
バン	2	0	2
オオバン	35	23	58
ヨリガメ	146	61	207
セグロカモメ	4	1	5
合計	747	293	1040

1 月手賀沼探鳥会とカウント

調査日時 2011.1.9 9:00~12:00

快晴 無風 気温 8.5

集合時は日当りに集まっていた参加者も、鳥合わせ時には日陰を求めるほどの好天気でした。道の駅での休憩時に、ミコアイサを期待して湖岸まで行ってもらったが、近くにいなかったのは残念だった。タカ類も適当に出て、ミサゴが捕ったばかりの魚を生きたまま食べている下沼での光景は圧巻だったと思います。

<認めた鳥> カイツブリ、ミミカイツブリ、カンムリカイツブリ、カワウ、ゴイサギ、ダイサギ、コサギ、アオサギ、コブハクチョウ、マガモ、カルガモ、コガモ、ヒドリガモ、オナガガモ、ミコアイサ、ミサゴ、オオタカ、ノスリ、ハヤブサ、チョウゲンボウ、ヒクイナ、バン、オオバン、タゲリ、ユリカモメ、セグロカモメ、キジバト、カワセミ、コゲラ、ハクセキレイ、ヒヨドリ、モズ、ツグミ、シジュウカラ、メジロ、ホオジロ、カシラダカ、アオジ、オオジュリン、カワラヒワ、スズメ、ムクドリ、オナガ、ハシボソガラス、ハシブトガラス 計 45 種 番外 カワラバト

<探鳥班> 田中恒雄、鈴木静治、宮下三禮、浅井久、榎本右、谷山晴男、常盤孝義、間野吉幸、佐々木隆、猪爪敏夫、西嶋昭生、小林孝夫、小玉文夫、竹沢孝夫、竹沢美奈子、吉田隆行、天野正臣、天野睦子、栗田励、野口紀子、六角昭男、川越久枝、金子幸子、玉井修一郎、植田啓介、類地佑子、田丸喜昭、大矢篤、小林博之、山中浩一(担当)松田幸保 参加者 31 名

<カウント班> 木村稔、田中功、染谷迪夫

調査日時：2011.1.9 9:30～12:45

晴れ、無風、気温 8

調査種	上沼	下沼	合計
カイツブリ	13	25	38
ハシロカイツブリ	3	8	11
カンムリカイツブリ	50	30	80
カワウ	15	77	92
コイサキ	52	0	52
タイサキ	5	13	18
コサキ	2	18	20
アオサキ	11	1	12
コブハチョウ	8	12	20

マガモ	11	2	13
カルガモ	142	3	145
コガモ	186	15	201
ヒトリガモ	2	5	7
オナガガモ	1	13	14
ホシハシロ	0	1	1
キンクロハシロ	0	1	1
ミコアイサ	0	6	6
ハン	2	0	2
オオハン	35	23	58
ユリカメ	54	51	105
セウロカメ	6	4	10
合計	598	308	906

【平成 22 年度芋煮会報告】

第 28 回目の芋煮会は、12 月 19 日、晴れて風もなく穏やかな芋煮会になりました。会場の五本松公園キャンプ場いっぱいには会員やご家族の方々の和やかな歓声・談笑が溢れ、好みのお酒や肴を満喫された様子でした。

最後に皆さんが持ち寄ったものを競りにかけ、盛況のうちに完売しました。

<参加者> 大野真澄、染谷迪夫、間野吉幸、大久保陸夫、松本勝英、中野久夫、猪爪敏夫、類地佑子、松田幸保、宮下三禮、山中浩一、六角昭男、小林博之、首藤佑吉、田中功、赤尾完、松下勝子、吉田隆行、西嶋昭生、小玉文夫、小玉信子、渡邊成、鈴木静治、桑森亮、古出洋子、古出夏妃、小林寿美子、金子幸子、木村稔、佐々木隆、島崎純造、永井真人、北原建郎、野口紀子、野口紀恵、石川綾香、石井薫、石井里沙、松本葉子、小林秀美 計 40 名

<メニュー> 料理：芋煮、焼き鳥、焼きそば、焼きいも、参加者手製料理など

飲み物：ビール、日本酒、ワイン、焼酎、ジュース、お茶など

(染谷迪夫)

福島潟・朝日池 探鳥会

11月27日、28日

～何百羽のヒシクイ群に感嘆！～

金子雅幸

何時かは訪れたい...と考えていた「福島潟」の探鳥会があると知り、おまけに朝日池・瓢湖まで行けるとあって早速申込。総勢10名の探鳥行となった。

11月27～28日の天気予報は、風も強く降雨確率70%と荒天が予想されていたが、出向いた「福島潟」は、我々を歓迎してくれたのかの様な、快晴・無風でしかも暖かい。

まずは豊栄駅より車で10分弱の「ビュー福島潟」へ寄り、荷物を預かって貰い7階の展望台へ上がって見ると、そこからは雪景色の飯豊山をバックにした福島潟が広がり、沼と芦原と立木の絶妙な風景。目を転じて周囲の田んぼを見ると、ヒシクイ、白鳥が羽を休めている姿。これは期待出来ると一同大いに盛り上がり、探鳥を開始した。

沼に沿った遊歩道を進んで行くと、多くのカモが水面に浮いている。マガモが多いが、逆光もあって居ると思われるトモエガモなどが見つけられない。それでも芦原の枯れ木に、オオタカの幼鳥、ノスリなどが止まり興味は尽きない。そして何より、湖上を飛翔するかって見たこともない、何百羽のヒシクイの小群が次々沼に舞い戻る様や、タゲリも数百単位で飛び交い反転時に見せる白色の美しさなどは、タダタダ感嘆するのみで「素晴らしい」の声と連写するシャッター音が響く。これだけで、ここに来た価値は十分に満たされた感じ。

昼食後は、田んぼでヒシクイ、白鳥の観察。何百羽のオオヒシクイの中に、何度探しても残念ながらマガンなどは見つけられず、白鳥も全てがコハクチョウであった。そして空には、鷹柱ならぬトビ柱状態で多くのトビが飛び舞っている。

この観察中何に驚いたか数百羽のオオヒシクイが一斉に飛び立ち、それは誠に見事なシーンを醸し出し、飛び去るオオヒシクイに向けたシャッター音が鳴り続けた。(しかし

コハクチョウは何故か動ずることなく、飛び立たない。)

「福島潟」は自然・環境整備も含め、又来たい...と思う素晴らしい探鳥地であった。

電車を乗り継いで、夕刻宿泊地の「民宿わすけ」へ到着。近くのスーパー銭湯で疲れを休めた後、豪華な船盛りやイカスミコロッケを肴に宴会は盛り上がり、探鳥談義は何処までも尽きず。その内、写真・レンズ談義など段々専門語が飛び交い、写真をやらない私には理解を超えて来た為、一足お先に一人一畳強の寢床で就寝。

翌朝、窓ガラスを叩く強風で目を覚まし、6時前に宿を出発。「朝日池」に着く頃は雨も降り出し最悪な状況に。ここは全員が初めての地であった為、探鳥までに時間を要しマガンは飛び立った後。しかも、お目当てのハクガンは一週間ほど前から居なくなってしまった...との事で残念乍ら観察できず。しかし雨に煙る寒さの中、悠然と飛び回るオジロワシが視界に入り、一同一気に盛り上がり対岸の立木に止まった姿に見入った。オジロ、オオワシは北海道では何度か見た事はあるが、ただ一羽で飛ぶ姿はかえって雄々しく私には見えた。又ここはカモの数も多く、湖面を数百のカモ達が飛び交う様は中々見ごたえのある風景であり、その中で久し振りに見たカワアイサ、ミコアイサ達の数の多さは、感動ものであった。マガンの戻りを期待し空を見つめていたが、天候の回復も見込みが薄いと判断し、予定を繰り上げて朝日池を後にした。鳥数の多い「朝日池」の探鳥には、車よりも機動性を上げる事が有効に感じた。

最終目的地の「瓢湖」へ向かう車窓から、荒れる日本海を眺めつつ水原駅へ。TAXIで瓢湖に着く頃には、幸い雨もやみ始めた。さてその瓢湖。異常(?)に多くのカモ達が割と小さな水面に浮かび(一時期の不忍池状態) 撒かれる餌にワツと群がり争う様は、観光客なら喜ぶ情景ではあるが、鳥見をする者としては正直楽しい...とは言えない見たくない光景。ただオオハクチョウの多くがその騒ぎをどこ吹く風...と加わる事なく、遠方で羽を休めていたのがせめてもの救い。又、夕暮れ迫る湖面に向かって、次々と舞い戻る

オオハクチョウの小群は、それはそれは胸に感動を覚えるシーンではあった。

ここ瓢湖で見られるのはほとんどがオオハクチョウで、福島潟はコハクチョウが主体であるのと、何故か違いを見せている。

全ての探鳥を終了して新潟へ戻る時、水原駅の親切な駅員のアドバイスで予定より一時間ほど早い新幹線に乗車。(地方へ行くと、本当に人の良い方が多い...と感じさせられる場面に良く出会う) 車中では、10人が車座になり今回の探鳥談義を肴に話が尽きず酒宴盛り上がり、もう上野駅...と言う感じで到着し、探鳥会は終了した。

今回の探鳥会は私にとって、素晴らしい感動的なシーンを幾つも見られた事の他、初参加で顔見知りも無く不安もあった中、9名の気持ちの暖かい方々と懇意になる事が出来た、とても嬉しく楽しい素晴らしい会でした。全てに亘り行き届いた配慮で、行程を纏めて頂いた幹事の田中さん、間野さんに、改めて御礼申し上げます。

【幹事報告】

一昨年の福島潟探鳥(日帰り)に続き、今回は一泊して、福島潟・朝日池・瓢湖での鳥達との出会いを10人の鳥仲間と楽しむことができました。初日は想定外の好天に恵まれ、福島潟辺の二番穂が生える冬季田んぼでのオオヒシクイの大きな群れとの近い距離からの出会いや飯豊連峰の白銀をバックにした数百羽のタゲリのダイナミックで華麗な群飛、多くの水鳥たちとそれを狙うタカ類とのゲームのような駆け引きなどを堪能できましたが、二日目は天気は一転して暗転し、想定どおりの越路の冷たい雨と横殴りの強風に見舞われ、朝日池での探鳥はみんな我慢の難業となった。鳥見どころでなくなった。吹雪やみぞれにならなかつたのは幸い。悠然と飛んで大木の上部にゆったり止まったオジロワシ、カワアイサの群が見せてくれる美麗で力強い飛翔、タカに怯えるカモの群れの移動など、もっと時間をかけて好条件で観察したかったが、お天気には勝てず、“流石の姫も堪りかね”で、予定を早く切り上げて瓢湖への列車の人となった。今回は期待のハクガン、シジュウカラガン(小型在来亜種)、サカツ

ラガンなどには会えず、大変残念であったが、帰りの新幹線での反省会が大いに盛り上がったのが、せめてもの慰めでした。捲土重来を期したいものです。

<認めた鳥>

11月27日(福島潟)

カイツブリ、カンムリカイツブリ、カワウ、ダイサギ、コサギ、アオサギ、オオヒシクイ、コハクチョウ、マガモ、カルガモ、コガモ、ヒドリガモ、ミコアイサ、トビ、オオタカ、ノスリ、チュウヒ、オオバン、タゲリ、ユリカモメ、カワセミ、ジョウビタキ、ヒヨドリ、モズ、ツグミ、ウグイス、シジュウカラ、メジロ、オオジュリン、カワラヒワ、スズメ、ムクドリ、ハシボソガラス、ハシブトガラス(計34種)

11月28日(朝日池)

カイツブリ、カンムリカイツブリ、カワウ、ダイサギ、コサギ、アオサギ、オオヒシクイ、コハクチョウ、マガモ、カルガモ、コガモ、ヒドリガモ、オナガガモ、ハシビロガモ、ヨシガモ、ミコアイサ、カワアイサ、トビ、オジロワシ、オオバン、ユリカモメ、セグロカモメ、ハクセキレイ、セグロセキレイ、ヒヨドリ、モズ、ホオジロ、スズメ、ハシボソガラス、ハシブトガラス(計30種)(マガンは同定出来ず)

11月28日(瓢湖)

カイツブリ、カンムリカイツブリ、カワウ、ダイサギ、コサギ、アオサギ、オオヒシクイ、オオハクチョウ、コハクチョウ、マガモ、カルガモ、コガモ、ヒドリガモ、オナガガモ、ハシビロガモ、ホシハジロ、キンクロハジロ、スズガモ、ミコアイサ、トビ、チュウヒ、オオバン、ユリカモメ、キジバト、ムクドリ、スズメ、ハシボソガラス(計27種)

<参加者>松田幸保、中根忠、金子雅幸、中野久夫、高梨昌久、松本勝英、桑森亮、古出洋子(幹事)間野吉幸、田中功 計10名

涸沼探鳥会

12月26日

~今年も、豊かな鳥相を実感!~

肥後邦彦

昨年12月26日(日)、年末恒例の涸沼探鳥

会が開催された。

午前7時40分頃、我孫子駅北口に行くと共に10名位の参加者が集まっていた。今回の幹事である北原さんにチェックインをする。集合時刻の午前8時には25名全員がそろい、6台の車に配車表に従い分乗し出発。国道6号線を北上し、圏央道「つくば牛久IC」から常磐高速道路に入り、途中、友部SAでトイレ休憩。車は友部JCTで北関東自動車道に入り、「茨城町東IC」で降りて昨年の第一探鳥ポイントの涸沼最西部は省略し、弁天鼻網掛公園に到着。

涸沼は茨城県中部に位置し、那珂川水系の湖沼である。案内によると86種の野鳥が確認されており、河川や水田等では春秋に渡りをするシギ、チドリ等が36種、冬季にくるガン、カモ種が24種、ワシ、タカ類が11種など鳥相は豊かとのこと。

弁天鼻網掛公園で約一時間探鳥。デジスコや一眼レフカメラに400ミリとか500ミリとか巨大なレンズを付けて撮影される方、スコープや双眼鏡でじっくり観察される方等皆さんそれぞれ。さらに車を進めて「いこいの村涸沼」周辺で約一時間探鳥。その後、昼食タイムとなった。風もあまり冷たくなく芝の上で摂った。

昼食後、第三のポイントである涸沼の東部へ回り、約30～40分ほど探鳥。

海に通じているため、潮の干満の影響を受ける汽水湖である涸沼のシジミは「ヤマトシジミ」として全国的に有名。毎回お土産として欠かせなく、老舗のシジミ屋さんに立ち寄り事前に購入予約していたためスムーズに購入。(店入り口には「本日、シジミ完売」の張り紙があった。)

本日の最終ポイントである茨城県南東部に位置する霞ヶ浦岸に回り約30分～40分探鳥。

鳥合せは常磐高速道路に入ってから「谷田部東PA」で行った。なんと言ってもカモ科の鳥が多く、初心者の方が判別出来たのは、マガモ、カルガモ、コガモ、ヨシガモ、キンクロハジロ等で鳥合せではカモ科は12種で、その他合計54種と昨年とほとんど同じ数の鳥種が観察された。

天気も良く、車の渋滞もほとんど無く、ト

ラブルもなく楽しい探鳥会であった。

幹事の皆様、ありがとうございました。

【幹事報告】

今回の探鳥会について、穏やかな天候のもとで54種の鳥が観察できましたこと、また今年最後の探鳥会もつつがなく終了できましたことは、偏に皆様方のお陰です。ありがとうございました。

<認めた鳥> カイツブリ、ハジロカイツブリ、ミミカイツブリ、カンムリカイツブリ、カワウ、ダイサギ、コサギ、アオサギ、コブハクチョウ、マガモ、カルガモ、コガモ、ヨシガモ、オカヨシガモ、ヒドリガモ、ハシビロガモ、ホシハジロ、キンクロハジロ、スズガモ、ホオジロガモ、ミサゴ、トビ、ノスリ、チョウゲンボウ、オオバン、タゲリ、イソシギ、タシギ、ユリカモメ、セグロカモメ、ウミネコ、キジバト、カワセミ、コゲラ、ハクセキレイ、セグロセキレイ、ピンズイ、タヒバリ、ヒヨドリ、モズ、ジョウビタキ、アカハラ、ツグミ、メジロ、ホオジロ、カシラダカ、アオジ、カワラヒワ、スズメ、ムクドリ、ハシボソカラス、ハシブトカラス 計52種
番外コクチョウ、カワラバト

<参加者> 間野吉幸、松本勝英、松本葉子、田丸喜昭、田丸メリールイス、田中功、小玉文夫、猪爪敏夫、桑森亮、松田幸保、山住良子、肥後邦彦、小林秀美、大久保陸夫、宮下三禮、渡邊成、中野久夫、金子雅幸、佐々木隆、吉田隆行、井上正、金子幸子、川越久枝、天野睦子(幹事)北原建郎 計25名

小見川・神の池・江戸崎探鳥会

1月3日

～関東では、珍鳥のホシムクドリが～

中根忠

初夢の覚めやらぬ正月三日、小見川大橋・神栖町・浮島・江戸崎探鳥会が開催されました。天気は晴れ。風もなく最高の観察日和です。最初の探鳥地小見川大橋付近では、ミサゴがお出迎え。スコープ群の上空を旋回、上々の滑り出しです。タゲリも飛んできました。チュウヒも出てくれて短時間で多くの収穫。二番目の目的地の神之池ではミコアイサ

の群れ。 のミコアイサはすぐそこに見えました。トモエガモ、オシドリも観察されたとのことです。浮島のハイド前で昼食、遠くの木の上にミサゴも食餌中。大橋を渡った直後の電線にホシムクドリも観察されました。天然記念物オオヒシクイを観察するため、江戸崎に向かう、二番穂の茂みにオオヒシクイの群れが休んでいます。観察場所からそれほど遠くない所に居てくれたのでまずまずでした。記載の鳥以外にも数多くの野鳥が観察され、大満足の新春探鳥会でした。

【幹事報告】

例年風の冷たい小見川の堤防は、今年は穏やかなうえにミサゴの出迎えもあり、よい出だしでした。神之池では、めったに見られないミコアイサの飛翔があり、よかったです。今年はこの探鳥会の代名詞である「波崎」をオオヒシクイの「江戸崎」に変更したのですが、タゲリの群にも会い、帰路の渋滞も少なく、明るいうちに帰着できたのはよかったですのではないのでしょうか。ただ、帰路のルートが分かりにくいところもあり、全員集合での鳥合わせができなかったことは、今後の課題とさせていただきます。

<認めた鳥> カイツブリ、ハジロカイツブリ、ミミカイツブリ、カンムリカイツブリ、カワウ、ウミウ、ダイサギ、コサギ、アオサギ、オオヒシクイ、コブハクチョウ、オシドリ、マガモ、カルガモ、コガモ、トモエガモ、オカヨシガモ、ヒドリガモ、オナガガモ、ハシビロガモ、ホシハジロ、キンクロハジロ、ミコアイサ、ミサゴ、トビ、ノスリ、チュウヒ、チョウゲンボウ、キジ、オオバン、タゲリ、イソシギ、ユリカモメ、セグロカモメ、ウミネコ、キジバト、ヒバリ、ハクセキレイ、セグロセキレイ、タヒバリ、ヒヨドリ、モズ、ジョウビタキ、ツグミ、メジロ、ホオジロ、オオジュリン、カワラヒワ、スズメ、ムクドリ、ホシムクドリ、ハシボソガラス、ハシブトガラス 計 53種 番外カワラバト、シナガチョウ

<参加者> 宮下三禮、田中功、中野久夫、天野正臣、天野睦子、浅野利幸、中根忠、中根洋子、間野吉幸、鈴木幸子、石渡成紀、田中恒雄、小玉文夫、松下勝子、小林博之、小林

美智子、松本勝英、松本葉子、金子幸子、猪爪敏夫、金子雅幸（幹事）田丸喜昭、桑森亮、松田幸保 計 24名

銚子カモメ 探鳥会

1月16日

～カイツブリ5種勢揃い！～

松本葉子

年末から連日の乾燥注意報が続いていたのに、当日(1/16)朝、突然の降雪、見る見る内に屋根も道路も一面白くなってゆく。「無事に我孫子駅まで行けるか?」と思いながらも身支度を済ませる。案の定、国道に出ると他車のスリップ事故に遭遇した。集合時間ぎりぎりに我孫子駅北口に到着、すでに皆さんは待ち状態で早速に出発した。

雪は粉雪からボタン雪に変わっており、気のせいかわかるようになっており、止むのは時間の問題に思われた。小降りの中、一路、香取のコンビニでトイレ休憩と昼食購入。

利根水郷ラインは、日陰の凍結箇所が所々あり、コンクリート橋脚に自損している車まであり、慎重に進むがまもなく笹川あたりに来ると、うそのように降雪の跡さえ見えない晴れ間になってきました。(来て良かった!)

いよいよ第一探鳥ポイントの銚子港鮮魚直売所に着いたけれど、車外に出て風の強さに思わず防寒服を着付けた。湾内でも三角波が立つほどで鳥影もセグロカモメの他はオオバン数羽だったので、早々に千人塚手前に移動し道路脇から防波堤を探るとほんの一角にカモメたちとウミネコ群が固まっている。風避けのポイントなのかも知れない。シロカモメが1羽いるのを教えてもらったが、他は私のレベルでは全く分からない。ここも頬が凍るほど冷たい強風で堤防の陰に沿って徒歩で千人塚まで移動した。遠く波消しブロックにはカモメたちが集まっていた。外の海上は波が高いので湾内に避難している様子でした。漁船が時折入港してくると波間に漂っていたカモメの中にも一斉に飛び立つ仲間がいて、その数、一群100羽を下らない。やっぱり銚子だ!野生のタフネスさをも実感した。

防波堤直下の海上では、カモたちが見えた。

ヒドリガモ、カルガモ、ホシハジロ・・・ウソ!なんと彼らと離れて湾の真ん中あたりにいるのは、シノリガモだ。白いラインが鮮やかなに、ちょっと地味なが並んで優雅に漂っていた。こんな近く肉眼で見えるのも強風のおかげとこの時だけは感謝した。

車中昼食時にイソヒヨドリの出現というサプライズに恵まれ、第三漁港に向かった。昨年、コクガンがいたポイントだ。釣り人が10人以上来ていたが、湾内はやはり波が高かった。ブロックに吹き当たる波の砕けた水しぶきが風に舞う。でも鳥たちは平然とそれぞれの位置で泳ぎ、群れて盛んに採餌していた。カイツブリ、カンムリカイツブリ、ミミカイツブリ、ハジロカイツブリと目で追っているうち、前方から「アカエリだ!」の声。私は、カイツブリのうちアカエリカイツブリだけ、今まで縁がなく声主の指差す方向を凝視した。波間と潜りでなかなかレンズに入らなかったけれど、その反対に丁度波に乗って浮いていた瞬間に殆ど全身を初認できた時は感激の一言でした。やっと会えた!5種勢揃いだ!

番外にスナメリまで出て、離れ難かったけれど時間に追われ最後のポイント外川漁港に向かった。外洋に突き出ているためか係留中の漁船も大きく上下している。風は相変わらず強く、カモメたちは船の引き上げ用の斜面で休暇をとっている。ウミネコの鳴き声だけが風に乗って聞こえた。期待したイソヒヨドリは、主人だけが向かい側の岩山にいたと言いつ張っていたが私は疑問符が付いた。

寒さで震える手で鳥合わせをして14時30分頃に現地解散したところ、最初の鮮魚直売所で、結局再会し、お土産のキンメヤカレイを買い、それぞれ帰路についた。

目前のシノリガモ、初認できたアカエリカイツブリ、やはり故郷、銚子は好きだ。

担当幹事の方々に御礼申し上げます。

【幹事報告】

早朝7時我孫子は雪模様、予報は風は強いが晴れ。予報を信じて実施決定。佐原、香取に来ると晴れて来た。風は徐々に強くなり銚子に着いたら強風。漁港のいつもの場所にカモメは少なく、風のない場所へ避難、それ

でも避難場所をたよりに探鳥。まあまあ、出てくれたと思う。

強風時の探鳥は集中力に欠けるきらいがあり、見逃した鳥もあるかも。雪道運転もあって、気を使ったが、何事もなく終了。ドライバー各位に感謝!

<認めた鳥>カイツブリ、ハジロカイツブリ、ミミカイツブリ、アカエリカイツブリ、カンムリカイツブリ、カワウ、ウミウ、ヒメウ、ダイサギ、コサギ、アオサギ、カルガモ、ヒドリガモ、オナガガモ、ホシハジロ、スズガモ、シノリガモ、トビ、ミサゴ、ノスリ、チュウヒ、ハヤブサ、オオバン、キョウジョシギ、イソシギ、ユリカモメ、セグロカモメ、オオセグロカモメ、シロカモメ、カモメ、ウミネコ、キジバト、ハクセキレイ、タヒバリ、ヒヨドリ、イソヒヨドリ、ツグミ、シジュウカラ、カワラヒワ、スズメ、ハシボソガラス、ハシブトガラス 計42種

<参加者>間野吉幸、桑森亮、中根忠、吉田隆行、金子雅幸、古賀嗣郎、浅野利幸、松本勝英、松本葉子、宮下三禮、田中功(幹事) 染谷迪夫、小玉文夫 計13名

舟とウォーキングによるツアー報告

1月22日、利根川舟運・まちづくり協議会主催で、「舟とウォーキングによるツアー」が開催され、当会は野鳥観察指導の要請を受け会員14名が参加しました。

水の館前から手賀沼沿いの遊歩道をフィッシングセンターまでと、そこから乗船し船上から手賀沼を一周の野鳥観察をしました。

我孫子、取手、印西市の3市の参加者56人を9班に分け、外に各市職員、皆さん冬の手賀沼を満喫していました。

第20回手賀沼ふれあい清掃報告

12月5日、年末恒例の手賀沼ふれあい清掃と美手連の統一クリーンデーが実施されました。

朝9時、快晴の手賀沼公園多目的広場には各団体、市民など総勢500余名の老若男女が集合、当会も14名の有志が担当エリアの「ゴミ収集」に汗が出るほど頑張りました。集めたゴミの総量は4tトラック4台にもなりました。

(染谷迪夫)

平成 23 年 1 月度幹事会 報告

日時 H23 年 1 月 9 日(日) 13:30~16:00 場所 水の館 3F 研修室

議題 H23 年上期行事予定について

4 月から 9 月までの定例探鳥会、日帰り、一泊探鳥会、行事予定を検討した。
会報 219 号掲載記事について

会報 219 号に掲載する記事を検討した。

第 3 四半期(4 月から 12 月までの会計状況) 会計が報告された。

報告・検討事項

- ・平成 22 年度「LOVE OUR BAY 募金」助成事業の募集への応募を承認。
助成金は 40 周年記念誌の製作費用に充てる。
- ・市民活動フェア in あびこ 2011 への対応
参加を承認。担当として浅井、佐々木を選任した。
6 月 18, 19 日実施(2 月 19 日プレフォーラム: 昨年の活動内容を紹介する。)
- ・川瀬巴水木版画展(3/18~3/23)へ協力を検討した。
- ・美手連関係行事などについて、間野が資料に沿って報告された。
役員改選について
任期満了(23 年 3 月)に伴う役員(幹事, 会計監査含む)改選について告知があった。

鳥 だ よ り

11.21 [染井入新田地先] 材刈(1) 手賀沼遊泳 桑森亮・間野吉幸他

11.22 [北新田] 材刈(1) 越流堤横柳上 中野久夫

11.22 [北新田] 刈(1) 杭上 中野久夫

11.23 [北新田] 刈(1) 電線から飛去 中野久夫

11.23 [片山新田] 刈(1) 電線の上 桑森亮

11.23 [北新田] 刈(1) 柵リング 中野久夫

11.23 [千間橋] 刈(1) 田の上を低空で飛ぶ 鈴木静治

11.23 [光ヶ丘] 広池学園 刈(1) 14:15、北北西方向から出現し、移動 飯泉仁

11.27 [江蔵地] 刈(1) 電柱上にとまる 鈴木静治

11.27 [布佐平和台] 刈(1) 高压塔周辺を飛ぶ 鈴木静治

12.1 [酒井根 6 丁目] 下田の森 材刈(1)

9:11、斜面林に飛来し、しばらく木の枝に止まり、その後林の中に入ったが羽の追尾を受けて、舞い戻る 飯泉仁

12.1 [酒井根 6 丁目] 下田の森 材刈(1) 9:29~9:52、木の枝から林の中に移動 飯泉仁

12.1 [東中新宿] 材刈(1) 14:05、自宅上空を羽に追尾されながら旋回し、その後西方向に羽と一緒に渡去 飯泉仁・飯泉久美子

12.3 [布佐下新田] 刈(1) 強風に乗り上空を飛翔 鈴木静治

12.6 [片山新田先手賀沼] 材刈(1) 14:18、雄個体、遊歩道脇の低木に止まって餌を狙った後、上空を旋回していた 飯泉仁・飯泉久美子

12.6 [大井新田先手賀沼] 刈(1) 12:35、上空を旋回した後、水面の杭に止まって休憩 飯泉仁・飯泉久美子

12.10 [江蔵地] 刈(1) 頭上を通過 鈴木静治

- 12.10 [江蔵地] ヲマシ(3) 木の梢に留まり鳴く 鈴木静治
- 12.12 [江蔵地] フウゲンボウ(1) 電柱から田の上を滑空する 鈴木静治
- 12.12 [江蔵地] ヲマシ(1) 飛んできて低木に止まる 鈴木静治
- 12.12 [手賀沼] ミヅ(1) 染谷迪夫他
- 12.14 [北新田] ミヅ(1) 2号排水路沿いの電柱上 中野久夫
- 12.15 [北新田] ヲマシ(2) 2号・4号排水路で 中野久夫
- 12.15 [千間橋] フウゲンボウ(1) 田の杭にとまる 鈴木静治
- 12.15 [北新田] フウゲンボウ(2) 電柱から飛去 中野久夫
- 12.15 [下沼田] ノリ(1) 田を低く水平に飛ばす 鈴木静治
- 12.15 [下沼田] ハブサ(1) 高圧塔上にとまる 鈴木静治・小林孝夫
- 12.15 [北新田] ミヅ(1) 3号排水路上を下流方向へ飛翔 中野久夫
- 12.16 [光ヶ丘上空] 材木(1) 13:50、カラスに追尾されて出現 飯泉久美子
- 12.16 [北新田] ノリ(1) 物色飛翔 中野久夫
- 12.17 [布瀬新田] フウ(1) 田の上を飛ばす 鈴木静治
- 12.18 [布佐] 材木(1) 民家の高木をかすめて飛ばす 鈴木静治
- 12.19 [下沼田] フウゲンボウ(1) 高圧塔の下部にとまる 鈴木静治
- 12.19 [下沼田] フウゲンボウ(1) 田の上を飛ばす 鈴木静治
- 12.19 [千間橋] フウゲンボウ(1) 停飛後垂直降下し獲物を捕まえる 鈴木静治
- 12.19 [水道橋] ヒ(1) 電柱上にとまる 鈴木静治
- 12.19 [浅間前] ノリ(1) 田の杭にとまる 鈴木静治
- 12.19 [水道橋] ノリ(1) 田の杭にとまる 鈴木静治
- 12.19 [千間橋] ノリ(1) 田の畔の杭にとまる 鈴木静治
- 12.22 [北新田] ノリ(1) 利根川堤防標識上 中野久夫
- 12.24 [北新田] 材木(1) 越流堤横柳上 中野久夫
- 12.24 [江蔵地] フウゲンボウ(1) 電線より飛び出す 鈴木静治
- 12.24 [下沼田] フウゲンボウ(1) 田の杭にとまる 鈴木静治
- 12.24 [浅間前] フウゲンボウ(1) 電柱上より飛ばす 鈴木静治
- 12.24 [江蔵地] ヒ(1) 斜面林上で妨に絡まれる 鈴木静治
- 12.24 [千間橋] ノリ(1) 田の畔の杭にとまる 鈴木静治
- 12.24 [浅間前] ノリ(1) 田の杭にとまる 鈴木静治
- 12.24 [下沼田] ハブサ(1) 高圧塔上にとまる 鈴木静治・小林孝夫
- 12.27 [千間橋] フウゲンボウ(1) 田の上を飛ばす 鈴木静治
- 12.27 [千間橋] ハブサ(2) 田にいるハブサを上空より他のハブサが威嚇する 鈴木静治・小林孝夫
- 12.29 [江蔵地] フウゲンボウ(1) 田の上を飛ばす 鈴木静治
- 12.29 [江蔵地] ノリ(1) 上空高く飛ばす 鈴木静治
- 12.29 [北新田] ヒ(2) 稲刈り田から飛び立ち 中野久夫
- 12.31 [北新田] 材木(1) 越流堤横柳上 中野久夫
- 12.31 [久寺家] ヲマシ(1) 金谷水門で採餌 中野久夫
- 01.1 [箕輪新田先手賀沼] ヲマシ(1) 11:16、葦原の中で鳴いていた 飯泉仁
- 01.1 [大井新田先手賀沼] ミヅ(1) 10:48 ~ 11:05、沼上空を旋回していた 飯泉仁
- 01.2 [北新田] 材木(1) 越流堤横柳上 中野久夫
- 01.2 [久寺家] ヲマシ(1) 金谷水門で採餌 中野久夫
- 01.2 [北新田] ヒ(1) 電柱上 中野久夫
- 01.2 [北新田] ミヅ(1) 利根川上を飛翔 中野久夫
- 01.9 [手賀沼辺] フウゲンボウ(1) 染谷迪夫他
- 01.9 [手賀沼辺] ノリ(1) 染谷迪夫他
- 01.9 [大井新田] ヒ(2) 水際歩渉。水面低く飛ばす。 間野吉幸
- 01.9 [手賀沼] ミヅ(2) 染谷迪夫他

- 01.12 [北新田] ㇿㇿ(2) 4号排水路で採餌 中野久夫
- 01.12 [北新田] ㇿㇿㇿ(1) 電柱上 中野久夫
- 01.12 [北新田] ㇿㇿ(1) 電柱から飛去 中野久夫
- 01.14 [北新田] ㇿㇿ(1) ㇿㇿにからまれ飛去 中野久夫
- 01.15 [酒井根 6丁目] 下田の森 ㇿㇿ(1) 10:19、鳴きながら東方向から飛来 飯泉仁
- 01.15 [酒井根 6丁目] 下田の森 ㇿㇿ(8) 9:48、鳴きながら東方向から飛来 飯泉仁
- 01.17 [北新田] ㇿㇿㇿㇿ(1) 土手の刈り草上 中野久夫
- 01.17 [北新田] ㇿ(2) 飛翔 中野久夫
- 01.18 [東中新宿] ㇿ(1) 10:08、集合住宅脇の木に止まって休んでいた 飯泉仁
- 01.18 [光ヶ丘] 広池学園 ㇿ(1) 10:32、上空を東中新宿方向から小金原方向に移動、翼下面の白いのが目立った 飯泉仁
- 01.19 [北新田] ㇿ(1) 飛翔 中野久夫
- 01.20 [北新田] ㇿㇿ(1) 4号排水路で採餌 中野久夫
- 01.20 [千間橋] ㇿㇿ(1) 田の上を低空飛翔 鈴木静治他
- 01.20 [浅間前] ㇿㇿㇿ(1) 電柱上にとまる 鈴木静治
- 01.20 [千間橋] ㇿㇿㇿ(1) 田の上空を飛ぶ 鈴木静治他
- 01.20 [千間橋] ㇿ(1) 川の上空を飛ぶ 鈴木静治他
- 01.20 [下沼田] ㇿㇿ(1) 高压塔にとまる 鈴木静治
- 01.20 [千間橋] ㇿㇿ(1) 田の上空を飛ぶ 鈴木静治他
- 01.20 [千間橋] ㇿㇿㇿ(1) 高压塔上にとまる 鈴木静治他

今回寄せられた鳥の全種名

<山野の鳥>

アオジ、アカハラ、ウグイス、エナガ、オオタカ、オナガ、カシラダカ、カワラヒワ、キジ、キジバト、コゲラ、コチョウゲンボウ、シジュウカラ、シメ、ジョウビタキ、

シロハラ、スズメ、チョウゲンボウ、ツグミ、ツミ、トビ、ノスリ、ハイタカ、ハシブトガラス、ハシボソガラス、ヒヨドリ、ビンズイ、ベニマシコ、ホオジロ、マヒワムクドリ、メジロ、モズ 計 33種

<水辺の鳥>

アオサギ、イソシギ、オオジュリン、オオハクチョウ、オオバン、オカヨシガモ、オナガガモ、カイツブリ、カルガモ、カワウ、カワセミ、カンムリカイツブリ、キンクロハジロ、クサシギ、ゴイサギ、コガモ、コサギ、コブハクチョウ、スズガモ、セグロカモメ、セグロセキレイ、セッカ、ダイサギ、タゲリ、タシギ、タヒバリ、チュウヒ、ハイイロチュウヒ、ハクセキレイ、ハシビロガモ、ハジロカイツブリ、ハヤブサ、バン、ヒクイナ、ヒドリガモ、ホシハジロ、マガモ、ミコアイサ、ミサゴ、ユリカモメ 計 40種
合計 73種

<番外種>

アヒル、エジプトガン、カワラバト、バリケン

今回の投稿者の総投稿件数

飯泉久美子	3
飯泉仁	462
飯泉仁・飯泉久美子	119
大久保陸夫	2
桑森亮	4
桑森亮・間野吉幸他	1
首藤佑吉	1
鈴木静治	51
鈴木静治・池田日出男・田中恒雄・宮下三禮・間野吉幸	16
鈴木静治・猪爪敏夫・谷山晴男・間野吉幸	24
鈴木静治・小林孝夫	3
鈴木静治・谷山晴男・間野吉幸	19
染谷迪夫・木村稔・田中功	69
中野久夫	47
間野吉幸	1
総計	822

(浅井久)

2010年11月 ハンガリーで鳥を追う

田丸喜昭

家内のメリルイス(以下ML)と二人で、私たち二人とリーダーを加えた10名の団体に参加し、ハンガリーでの鳥見旅に出かける。私たちは、旧共産圏の国へ旅するのは初体験だ。

11月3日

午後0時25分にオーストリア航空で成田を飛び立ち、10時間ほどの飛行時間のあと、オーストリアの首都ウィーンに現地時間午後4時ごろ到着。日本との時差は8時間遅いので、日本時間では真夜中である。私たち二人は、飛行中によく寝込んでいた。簡単な入国検査を済ませて外に出ると、日没時間が早く真っ暗だった。この旅の現地で行われる案内を担当する現地のバードガイドのゾーリー君とバスの運転手が我々を待ち受け、荷物を小型の牽引車に積み込み、直ちに東方向のハンガリーへ高速道路で向かう。外は真っ暗で、風景を見ることはできないが、交通量はかなり多い。高速道路沿いには町や集落も少ない。一時間ほどで、国境に着くが、ハンガリーはECに加盟しているので、通過する人間の入国検査はなく、バスはそのまま通過したが、かなりの数の大型トラックが税関手続きのために行列していた。国境を過ぎたところで、ハンガリーの首都ブダペストまで170kmの表示を見た。私は日本からユーロ通貨の現金を持っていった。旅行案内では、ハンガリー通貨との両替は、国境にある交換所ですることになっていたが、時間が遅く、すでに閉まっていた、ここでは両替せず。結局、最後まで通貨の交換はしなかった。

途中で、ガソリンスタンドに立ち寄る。後で知ったが、高速道路沿いには、かなりの数の大型のガソリンスタンドがあり、大型コンビニ店を併せ持ち、トイレ使用や、食品、水、みやげ物を販売したり、レストランやカフェを開いている。日本の高速道路のサービスエリアのような機能をはたしている。こちらは、水道水が飲めないので、250mlか500mlのペットボトルに入ったミネラルウォーター(ガス入りまたはガス無し)を買わねばならない。ここでハンガリー全土の道路地図を買った。支払いはユーロで約¥800ほどだった。ブダペスト地区を通過したが、高速道路は街の外側を周遊しているのだろうか、市街地を眺めることはなかった。

この日の宿泊地は、ハンガリー東部にあるブダペストから推定で200km先のホートバイ国立公園近くのナデュドバル(*Nadudvarと書くが、発音は私流)でトロフェア ヴァダズハズ & エテレム(Trofea Vadaszhaz & Etterem(*))というホテル。バスが走行中は、日本から長時間の旅であったために、かなりの時間寝込んでいて、走行経路については記憶がない。現地時間午後11時に宿に到着し、ウィーン空港からは、6時間かかったことになり、日本時間は翌日の午前5時だ。荷物を降ろし、割り当てられた部屋に入れて、すぐに夕食をとり、就寝。翌朝の朝食は、午前6時からで、出発は7時と言われ渡される。

11月4日

午前5時に目が開き、朝食と出発の準備をする。前日の飛行機とバスの長旅の間に、よく寝たせいか、睡眠不足の感じはない。タバコを吸うために外へ出てみると、まだ夜が明けず、氷は張っていないが気温はずいぶん低い。緯度からすると、樺太南部やハバロフスクと同じだ。朝食も十分食べることができた。このホテルは、国立公園近くに、狩猟客や観光客のために1991年に建てられ、6戸のキャビンと9室のダブルベッドの部屋を持っている。建物の古風さや部屋や他の設備のゆったりとしたスタイルからすると、ホテルになる前には、地元有力者のクラブ形式の設備だったのではなかろうか。従業員たちのサービスもよい。

気の早い人たちは、出発前に、ホテル周辺や近くの池で、観察を始める。朝食後、観察用具や写真機材を持ってバスに乗り込む。町を離れると、牧草地のような平地が広がり、とこ

るどころに 150cmほどの背丈の枯れたトウモロコシ畑が散在している。これは、人間の食用でなく、ベールに巻かれて、冬場の家畜の飼料になるとのこと。途中の道路わきにバスを止めて、周囲の樹木や、平原の小鳥たちを観察。シラコバト COLLARED が多い。ポイントを移動して、牧草地の中で、ハンガリーの国鳥であり、鉄塔にとまるセイーカーハヤブサ SAKER FALCON を探す。姿は現れない。ミヤマガラス ROOK(これが一番多い)、ニシコクマルガラス JACKDAW、ワタリガラス RAVEN、ハシボソガラス/ズキンガラス CARRION CROW/HOODED CROW(後の二種はあまり多くない)が多く群れで周囲を飛び回る。ニシコクマルガラスの鳴き声は、通常のカラスと違い、高い声で、キャツ、キャック、キャーなどで、初めて出会ったときには、声だけではカラスの種とは思わなかった。広がる牧草地で、餌が多いせいだろうワシタカ類の数も多い。一番よく見かけるのがノスリ COMMON BUZZARD,かなりの回数で目撃したので、後になると、「またノスリか」という声が聞こえた。続いてヨーロッパチュウヒ MARSH HARRIER とハイロチュウヒ HEN HARRIER. 私はハイタカ SPARROWHAWK を見落とした。コウライキジ PHEASANT もよく見かける。

ある町(名前はわからない)に入り、その中心部の街路樹や屋敷内の樹木に、150羽ほどのトラフズク LONG-EARED OWL が住みついているので、それを見ることになる。写真も短い距離できれいに撮ったが、小枝が邪魔して、体全体がきれいには収まっていない。私たちが身近にいたせいで警戒心からか、両耳をピンと立てていた。大きな目で、地はオレンジ色で黒い目玉が大きい。これらの特徴は近写した写真によく出ていた。

次は、マガン WHITE-FRONTED GOOSE(一番数が多い)、カリガネ LESSER WHITE-FRONTED GOOSE、ハイロガン GREYLAG GOOSE(この種は少数)、アオガン RED-BREASTED GOOSE(数羽)などが朝の採餌後に集まる広い湖に行く。300-400m先の湖の中心部に帯状にガンなどが休んだり移動したりしているが、距離があるので望遠鏡でも、マガンを除いては識別がやや難しい。空には数羽から200羽の群れが続々と舞い戻ってくる。一日に一万羽は集まるのだろう。10数羽のオジロワシ WHITE-TAILED EAGLE の若鳥が一行に並んでいた。成鳥とは異なり、尾はまだ白くない。タゲリ LAPWING も数が多かった。ツクシガモ SHELDUCK を私は見落とす。カモメ類の数も多く、用意されたチェックリストでは、キアシセグロカモメ YELLOW-LEGGED GULL と表示されていたが、近年の新しい分類では、ここの多数は、カスピアンカモメ CASPIAN GULL とのこと。他にはニシセグロカモメ LESSER BLACK-BACKED GULL と カモメ COMMON GULL だ。周辺の芦原には、小鳥たちが多かった。私たちが一通り見終わったところに、地元漁業者と思われる10名ほどの人たちが、腰ほどまでつかる泥水の中を、湖岸から湖の中心方向(ガンたちが休んでいる方向)にむけて歩き始めると、ガンたちは一斉に飛び立っていった。

この地域の風景は、見渡す限りの牧草地で、ところどころに晩秋の小さい落葉樹林が見られるが、針葉樹の数は全体的に少ない。森と表現するほどの樹木が集まっている場所も少ない。周囲の地平線までに、山らしいものが見えず、ここでは、日の出と日の入りは、地平線からということになる。小さい川のそばの高木の落葉樹に囲まれたレストランに着き、周囲の樹木の中のカラ類やシメなどを観察。ここはナマズ料理が主体で提供され、最初が大きな鉄なべ(一人用)に入ったナマズのスープ。メインは、ナマズの肉料理。とても美味かった。近く幅50mほどの川で、道路が分断され、そこに人と一台の車を運ぶ小さな「渡し舟」が運行されている。船の推進には、片側の船側に直径2mほどの水かき車があり、それを回転させて船が進むようになっていた。

途中、何ヶ所かの道路わきにバスを止めて、探鳥をしながら、数千羽のクロツル COMMON CRANE が夜を過ごすポイント近くに行く。午後3時を過ぎると、ツルの群れが三々五々に小さなものや大きな群れをつくりクルーまたはカルーと鳴きあいながら四方の空から集まり、我々の立っている草原にある場所の頭上を通過して、宿営場所に向かって降りていく。日没は午後4時ごろで、光度はだんだん落ちて、夕焼けの中の地平線に落ちていく太陽を背景に、多数のツルが通過していく。私は30枚ほど、この光景の写真を撮ったが、だんだん暗くな

る時間帯の飛び行くツルたちの写真を正確に撮ることは至難で、結果は私の記憶のための良い記録となったものの、写真としては、喜ばしいものにはならなかった。【次号へつづく】

会 員 便 り (ab-yacho より)

【サバクヒタキ】

昨日(12/22)酒直にサバクヒタキを観察に行きました。まだ逗留中です。ウイークデイのせいかカメラマンなど40名くらいでした(2010.12.23 首藤佑吉)

今日、朝7:00ころ現地につきました。カメラマンは、すでに40人くらいいました。今日は休日なのでさらに増えることと思います。サバクヒタキは、元気にでていました。(2010.12.23 中根忠)

酒直のサバクヒタキは私も見に行きましたが、私の持っている鳥類保護連盟と日本野鳥の会の図鑑で、顔の黒さが異なっています。15年前に浮間船渡近くの荒川で見っていますが、記憶があいまいなので、ポジフィルムを引っ張り出してみたら濃い方でした。酒直の個体は若鳥なのでしょうね! 40年ほど前にゴミ捨て場だった東京湾の“夢の島”で発見された写真を覚えています。そんな場所まで鳥見に行く人に関心しました。(2010.12.24 松田幸保)

【手賀沼のミサゴロー】

穏やかな天気につられて、元旦もミサゴローを訪ねました。いつの間にか、大きな魚を捕らえて杭に止まっていたので、どう食べるかを観察しました。食卓にしている2本の杭を魚を持ったまま4・5回往復しましたが、どうしても杭の上に持ち上げられません。最後には魚ごと水に落ちてしまい、やっと飛び上がったものの、片足づかみの魚を水面を引きずるような状態になり、とうとう放してしまいました。かれこれ1時間、魚の体長はミサゴローより頭ひとつ小さいくらいの大物でした。とんだ元旦でしたね!(2011.01.01 松田幸保)

【北新田】

コチョウゲンボウは田んぼ上を低空飛翔していました。タゲリは耕起作業中の田んぼにいました。(2011.01.18 中野久夫)

【板倉&渡良瀬】

懲りもせず、ミヤマガラスの群れを求めて板倉の田んぼを走り回り、コクマルガラスを追い求めたのですが、出会うことができませんでした。そのかわりにケリ、タゲリに出会い至近距離から撮影できました。また、渡良瀬のコミミズク、ベニマシコに挑戦、両者に出会いが叶いました。その他、多摩川の河川敷にいるトラフズクにも挑戦、ねばって開眼したところを捉えることができました。(2011.01.25 大久保陸夫)

【高崎自然観察公園】

しばらくぶりで行った高崎自然観察公園は綺麗に整備され、変わってしまいました。鳥さんも住みにくくなったようです。勿論、普通のベニマシコもいますが、その他カシラダカ、マヒワ、ホオジロ、メジロ、オオタカなどがいました。(2011.01.28 大久保陸夫)

【コイカル】

今日30日の市民探鳥会(我孫子市、レンジャー、守る会共催)で、コイカル(オス)1羽を高野山新田の手賀沼辺のサクラの樹の枝に止まっているのを観察しましたので、報告します。昨年はサクラの樹の枝に付いたイラガの蛹殻?を盛んに餌にしていたのですが、今年の餌は何なのか?もっと観察が必要です。繁殖の可能性?も考えられなくもないので、メスを

探しているのですが、チカチカ見つかりません。(たまにしか歩かないので当然かもしれませんが。)どなたかメスを見た方は居られますか?(2011.01.30 田中功)

今年の1月2日に市民農園近くの手賀沼遊歩道で撮ったコイカルです。今年はイラガが小さいので黒い木の実をよくたべているようです。何の実かわかりません。昨年、遊歩道でオスの囀りに応答しているコイカルの声を聞いたのですが、姿は確認できませんでした。それも、ただ1度だけなので不思議です。(2011.01.30 中根忠)

中根さん、今年の1月2日に市民農園近くの手賀沼遊歩道で撮られたコイカルの画像、ありがとうございます。これ(画像)もオスですね。コイカルは、オスとメスで、その体色はかなり違います。(私は、一昨年、小金井公園で、一度だけ、コイカルの雌を見たことがあります)餌についてですが、「今年は、黒い木の実をよくたべているようだが、何の実かわかりません」とのこと、どなたかこの黒い木の実が何であるか?教えて頂ければ幸いです。(2011.01.30 田中功)

この果実は、エノキではないでしょうか。手元の記録を見ると、手賀沼遊歩道沿いのエノキの果実は、7月下旬ころから見られるようです。はじめは、果皮の色が赤や橙色ですが、しだいに黒くシワシワになっていきます。それにしても、ずいぶん長い期間、残っているものですよね。遊歩道沿いでは、ムクドリ、ヒヨドリ、ツグミなどの餌にもなっているようです。ところで、田中さんがおっしゃるように、最近、メスのコイカルを見ていないような気がします。私は、2004年に、花びらの散ったソメイヨシノの子房(ソメイヨシノなのでほとんど発達していませんが)を食べている雌雄のコイカルを見て以降、見ていません。十数年前に、手賀沼公園で繁殖記録がありますが、営巣樹となっていたポプラの伐採後、どこか近くで繁殖しているのかどうか、気になります。(2011.01.30 斎藤・鳥博)

斎藤さんからの返信メールをみて、「野鳥と木の実ハンドブック」(文一出版)のエノキを調べたところコイカルがエノキの木の実を食べている写真が掲載されていました。コイカルはこの実が大好きなのかもしれません。でも、この本では、エノキの実は、「茶色・白色の木の実」に分類されていたので、気がつきませんでした。斎藤さんのご説明で冬には、黒くなっていることが解りました。斎藤さん、ありがとうございました。(2011.01.31 中根忠)

【ミサゴ】

最近、手賀沼のミサゴローは目の前で魚を獲ってくれないので、他へミサゴを見に行っています。鳴き声が聞こえる距離で見られるのですが、魚を持っている時は逃げます、盗られると思うのですかね!きつい顔をしています。メスの典型のようです。(2011.01.31 松田幸保)

ほーほーどり No. 219 (2011年3~4月号)

発行 2011年3月1日

発行人 間野吉幸

編集人 猪爪敏夫、小玉文夫、佐々木隆、野口紀子、松本勝英、宮下三禮

事務局 染谷迪夫 〒270 1154 我孫子市白山 1-9-4 Tel: 04 7182 3972

URL <http://abikoyacho.org/>

郵便振替 00140-2-647587 我孫子野鳥を守る会

会費 年会費 2,000円(大学生・高校生 1,000円、中学生以下 500円、家族会員 無料)